

第2章 佐賀市におけるみどりの役割と課題

第2章 佐賀市におけるみどりの役割と課題

みどりの持つ主要な役割を「環境保全」「レクリエーション」「防災」「景観」の4つにまとめ、これらの視点から、佐賀市におけるみどりの課題を整理します。

1. 役割別みどりの課題

(1) 環境保全

役割)

みどりは、二酸化炭素の吸収、大気や水質の浄化、騒音や振動の緩和をはじめ、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、水源かん養などの機能を有しており、人と自然が共生する良好な都市環境を形成します。

課題)

①佐賀市のみどりの保全と管理

- ・ 脊振山系、天山山系など、大部分が都市計画区域外にある山並み、そして、都市部を囲むように広がる農地、嘉瀬川や筑後川、多布施川などの水辺、また名木・古木や鎮守の森など歴史を感じることのできるみどりの空間は、良好な都市環境を形成するとともに、喫緊の問題となっている地球温暖化防止などの役割を担っています。現在に生きる私たちは、これらの緑地を保全、管理し、次世代に継承する必要があります。
- ・ 北部山間地には人工林が多く残っているため、間伐や混交林化などの手入れにより、森林を守り、質を向上させていく必要があります。

②多様な生物の生息環境の保全に配慮した整備

- ・ 嘉瀬川や巨勢川、多布施川や松原川などの水辺空間の景観整備を積極的に進めてきました。今後も交流拠点となる河川やクリーク、ため池の環境を保全する必要があります。
- ・ 動植物の生息環境の保全に配慮しながら、水辺空間の整備を進めることが必要です。
- ・ 現在の生態系の維持と創造を図るためには、樹林地や河川、クリーク、ため池、ビオトープなどを保全するとともに、これらを結ぶネットワークを形成し、生息する動植物の生息環境を保全していくことが必要です。
- ・ ラムサール条約に登録された東よか干潟、さらには海苔の養殖が行われる有明海の環境は、森林や河川、クリークなど全ての環境の変化によって影響を受けやすく、この里海を保全するために市域全体の環境保全に取り組む必要があります。

③みどりのリサイクル

- ・ せん定枝や撤去樹木をチップ化するなどの、みどりの循環への取り組みをさらに推進し、拡大していく必要があります。



(2) レクリエーション

役割)

公園や河川、山林などは、スポーツや散策、森林浴、自然観察、環境学習等のレクリエーションの場として、心身共に安らぎを与え、コミュニティ活動などのふれあいや憩いの場を形成します。

課題)

①水に親しむことができる水辺空間の保全

- ・歩いて楽しめる散歩道や水辺空間の保全など、身近な娯楽や憩いの場として利用することができるように、地域の特性を活かした水辺空間を保全する必要があります。

②市民参加による安全で快適な公園整備

- ・樹木が大きくなり見通しが悪い公園があります。
- ・バリアフリーへの配慮など、誰もが安心して利用できる公園づくりが必要です。
- ・今後、「都市公園法」の改正などにより、市民や事業者が公園を活用する事業機会が増える可能性があり、民間活力を活かし市民のニーズに即した公園づくりを検討する必要があります。

③保健・文化機能をもつ森林の整備

- ・森林が持つ諸機能の1つである、保健・文化機能を増進させ、景観の向上や森林とのふれあいの場を整備することが必要です。

(3) 防災

役割)

樹木などは、土砂流出や崩壊、水害等の自然災害の抑制や緩和、火災の延焼防止等の機能があり、都市の安全性と防災機能を高めています。公園は災害発生時における市民の一時的な避難場所になります。また、樹木は避難者に安心感をもたらし、花は心を和ませる心理的効果があります。

課題)

①避難場所の確保や防災機能面に配慮した身近な緑地の整備

- ・都市公園、児童遊園、小・中学校その他のグラウンドなどは、災害時の避難場所として有効であるため、適切な空間の確保が必要です。
- ・山並みは、土砂の流出や崩壊の防止のため、保全していくことが必要です。
- ・周辺建物などが倒壊して状況が一変した場合、大木が目標になるなど、ランドマーク的な役割となり得るため、街路樹の植栽や屋敷林等を確保することが必要です。

②避難路の体系的な整備

- ・嘉瀬川などの比較的規模の大きな河川や街路樹のある幹線道路は、火災の延焼防止などに役立ち、災害時の避難路を確保できる機能を有することから、一時的な避難場所と避難所などをつなぐような体系的な整備が必要です。

(4) 景観

役割)

地域の気候や地形の特徴、長年の人間の営みによって形成されてきた地域の風景や景観は、大切な財産であり、ふるさとに対する誇りや愛着を感じさせる重要な要素の一つです。

また、人工的な空間が多い都市部においては、街路樹や川の流れ、公共空地やまちかどのみどりが、まち全体にうるおいとやすらぎ、季節の彩りを与え、美しい都市景観の形成に寄与します。

課題)

①景観資源としてのみどりの望ましい方向性の検討

- ・佐賀城周辺や古木などの歴史的景観や、田園や棚田などの特色ある景観資源について、特徴を明らかにしてそれぞれの資源の望ましい方向性を検討する必要があります。

②みどりのストックを活かし「量の確保」から「質の向上」へ

- ・水とみどりが織り成す美しい景観を創出するためには、貴重な樹林地の保全を行うとともに、公園や公共地などのみどりの量を拡大していく必要があります。しかし、緑化などができる用地が限られていることや公園などを管理する市の財政面の制約、また人口減少などの状況の変化により、新たに公園等を整備し、みどりの「量の確保」を続けることは困難であることから、今後は今あるみどり、公園などを活かす「質の向上」へと転換していく必要があります。
- ・良好な景観づくりを行うために、開発などによるみどりの減少を条例や協定によって、補填する必要があります。また、街路樹や生垣等の連続したみどりなど、既存のみどりの量を実際以上に感じられるような空間づくりも必要です。

③景観の質を高めるみどり

- ・佐賀市を訪れた人々を温かく迎えるため、特に佐賀駅前、金立サービスエリアハイウェイオアシス、中心市街地、温泉街のような人々が集まる場所を、心地よい香りや可愛らしさを持つ花で彩るなど景観の質を高めるみどりが必要です。
- ・さらに、幹線道路への街路樹の植栽や沿道を花で彩るなど、うるおいあるみどりの都市空間づくりを推進することも必要です。
- ・これまで、佐賀市民が関わることによって良好に保たれ、創られてきたみどり空間を佐賀市の文化として発展させることが、今後の生活環境を向上させる上で重要な視点となります。

④山から海までつながるみどり

- ・佐賀市は脊振山麓から河川、有明海までつながる一連のみどりが独自の景観を創り出しています。しかし、中心市街地や幹線道路にはみどりが少なく、佐賀市独自のみどり豊かな景観が分断されています。佐賀市の特徴である山から海までつながるみどり豊かな景観を創り出すためには、中心市街地のみどりや街路樹などの緑化の推進が必要です。



2. その他みどりに関わる課題

●みどりに対する意識の高揚

- ・「佐賀市みどりに関する市民意識調査」ではみどりあふれるまちづくりに関心がある人の割合が約8割を占めています。緑化イベントには多くの人が集まり、寄せ植えコンテストやみどりと花のフォトコンテストへの応募数も増加しています。しかし、宅地や施設敷地内の緑化などにはつながりにくい現状があります。
- ・更なる緑化の推進には、市民・事業者・行政が「山のみどり」「農地のみどり」「市街地のみどり」などそれぞれの役割を理解し、みどりに対する意識を高揚させることが必要です。

●みどりに関わる人材の確保、育成

- ・現在、多くの市民が公園の清掃やクリークの浚渫しゅんせつなどの維持管理に携わっています。しかし、高齢化による人手不足などの課題があり、活動を継続するためには人材の確保と育成が必要です。
- ・佐賀市の緑化の推進に貢献する市民は多いものの、活動の拡大や人材の確保が困難であり、その活動などを市民へとPRすることが必要です。

●減少する市街化調整区域のみどりの保全

- ・本来みどりの保全が十分期待される調整区域において、宅地の分譲開発が進んでいます。その結果、多くのみどりが失われ、また、小規模な分譲地が散在することで、狭小な開発公園が増えています。
- ・市街化調整区域の農地については、佐賀らしさを演出する貴重な景観として重要であることから、今後の開発などのあり方を検討し、佐賀市全体における制度や計画などの整合を図る必要があります。

●生活の中で感じる身近なみどりの創出

- ・平成 25 年 8 月に実施された「佐賀市みどりに関する市民意識調査」で「地域のみどりに満足している、どちらかと言えば満足している」という人の割合が 73%であることから、佐賀市のみどりに対して満足している人が多いことがわかります。
- ・まちなかに住んでいる人も少し足を伸ばせば、山間部などのみどりとふれあうことができます。
- ・一方で街路樹や集落内のみどりに不満を感じる人は多く、身近なまちなかの緑化は進んでいない状況です。
- ・多くの人々が住み、働く市街地のみどりが減少していることを市民・事業者・行政それぞれが理解し、生活の中で感じることができる、身近なみどりを増やしていくことが必要です。



第2回みどりと花のフォトコンテスト最優秀賞／作品名：「秋の休日」



撮影場所：金立公園コスモス園